

**有害プランクトン情報** (令和2年度 - No. 10)

千葉県水産総合研究センター  
東京湾漁業研究所・生産技術研究室  
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- |       |    |        |          |      |          |      |
|-------|----|--------|----------|------|----------|------|
| ○ 調査日 | 沖合 | 1月 第1回 | 内湾 (8地点) | 1/6  | 内房 (7地点) | 1/6  |
|       |    | 1月 第2回 | 内湾 (8地点) | 1/18 | 内房 (7地点) | 1/21 |

**東京湾(内湾)****【有害プランクトンの出現状況】**

- 2回の内湾調査でカレニア ミキモトイがみられました。(カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します)
  - ・1/6 盤洲南部を除いた内湾の全域: 最高密度は千葉沖の12.4細胞/mL
  - ・1/18 内湾の全域: 最高密度はアクアライン北部の37.6細胞/mL
 同種は水質保全課、千葉県環境研究センターの調査時にもみられており、今後の動向に注意が必要です。  
(水質保全課)
  - ・1/5-6: 浦安沿岸 (30細胞/mL)、湾中央 (20細胞/mL)
 (千葉県環境研究センター)
  - ・1/14: 湾中央 (20細胞/mL)
- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属は確認されませんでした。
  - ※ 赤潮 (透明度1.5m以下, pH8.5以上, 酸素飽和度150%以上) は確認されませんでした。
  - ※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。

**【貝毒原因プランクトンの出現状況】**

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
  - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
  - 1回の内湾調査でディノフィシス アキュミナータがみられました。
    - ・1/6 千葉沖および羽田沖: 密度はいずれも0.1細胞/mL
  - 2回の内湾調査でディノフィシス ロツンダータがみられました。
    - ・1/6 アクアライン南部および羽田沖: 密度はそれぞれ0.1細胞/mL、0.2細胞/mL
    - ・1/18 アクアライン南部および盤洲南部: 密度はそれぞれ0.1細胞/mL、0.05細胞/mL
  - 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

## 東京湾(内房)

### 【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。  
※ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) は確認されませんでした。

### 【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
  - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
  - ディノフィシス ロツンダータは 1/21 に大貫沖でみられ、密度は 0.05 細胞/mL でした。
  - 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

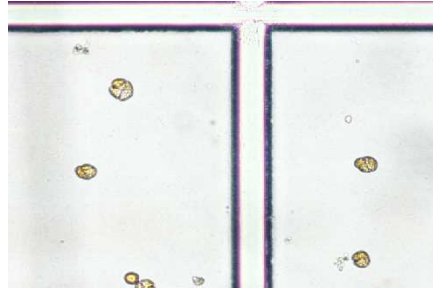
(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

### ○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

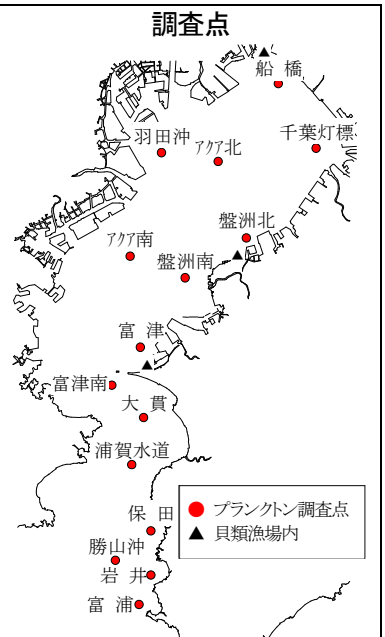
- |         |       |                         |
|---------|-------|-------------------------|
| 1/6     | 内湾・内房 | 珪藻のスケルトネマ属、渦鞭毛藻のカレニア属など |
| 1/18,21 | 内湾・内房 | 珪藻のスケルトネマ属、渦鞭毛藻のカレニア属など |



スケルトネマ属  
(1/18 アクアライン北部)



カレニア属  
(1/18 船橋沖)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp